

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年10月29日(月)～平成30年11月4日(日)【平成30年第44週】の感染症発生状況

第44週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.38人と前週(4.30人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.51人と前週(2.89人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.67人と前週(1.56人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



～薬剤耐性 (AMR) を知っていますか？～

さまざまな細菌感染症の治療薬として抗菌薬(細菌の増殖を抑制したり殺したりする薬)が使用されています。抗菌薬は、適切な使い方をすれば非常に効果のある治療薬ですが、一方で中途半端に、あるいは不必要に使用すると、抗菌薬の効かない耐性菌を生み出してしまふ危険もあります。薬剤耐性(AMR)とは、特定の種類の抗菌薬等が効きにくくなる、または効かなくなることです。

抗菌薬は正しく服用しましょう！

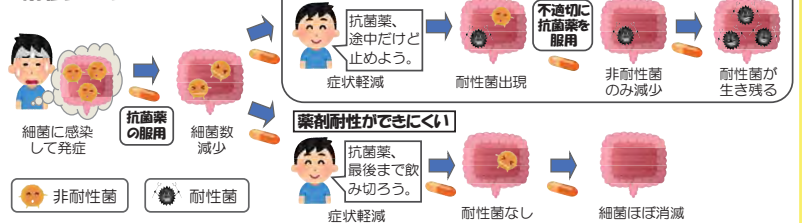
- ・かぜの原因の多くはウイルスのため、抗菌薬は効きません。
- ・抗菌薬は医師の指示どおり最後まで飲み切りましょう。
- ・抗菌薬をあげたり、もらったりするのはやめましょう。
- ・抗菌薬をとっておいたり、別の機会に飲むのはやめましょう。
- ・わからないことは医師や薬剤師に聞きましょう。

感染症の予防が重要！

- ・手洗いの徹底
- ・ワクチン接種
- ・咳エチケットを守る。



<耐性菌が増えるメカニズム>



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年11月5日(月)～平成30年11月11日(日)【平成30年第45週】の感染症発生状況

第45週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 伝染性紅斑でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.65人と前週(4.38人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.38人と前週(2.51人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は1.84人と前週(1.32人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎の患者報告数が増えてきました！

感染性胃腸炎は細菌やウイルス等を原因とし、嘔気・嘔吐、下痢、腹痛等を主症状とする感染症です。毎年、秋から冬にかけて流行し、12月にピークを迎えます。

川崎市では、平成30年第45週(11月5日～11月11日)の定点当たり患者報告数が5.65人となり、例年と比べると流行の始まりはやや遅いですが、4週続けて患者報告数が増加しました。

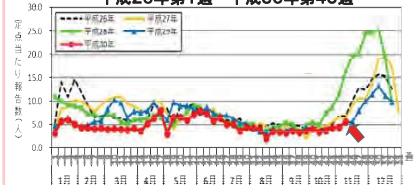
手洗いや嘔吐物・便の適切な処理等の予防対策を徹底し、感染性胃腸炎に「感染しない・感染させない」ための心がけが大切です。

感染予防・感染拡大防止のポイント

- ◆食事や調理の前、トイレの後等は、必ず手を洗う。
- ◆下痢や嘔吐などの症状がある場合は、食品を直接取り扱う作業は控える。
- ◆貝類や肉類は中心部まで十分に加熱する。
(85℃～90℃で90秒以上)
- ◆調理器具は使用後、洗って熱湯消毒する。
- ◆嘔吐物や便は、次亜塩素酸ナトリウムを利用し、適切に処理する。

特に子どもや高齢者などの抵抗力の弱い方は、重症化する場合もあるため、予防対策を徹底しましょう。

川崎市における感染性胃腸炎発生状況 —平成26年第1週～平成30年第45週—



「ノロウイルス食中毒警戒情報」発令中！

神奈川県において、感染性胃腸炎の患者報告数が3週連続して増加したことから、平成30年11月12日(月)にノロウイルス食中毒警戒情報が発令されました。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年11月12日(月)～平成30年11月18日(日)〔平成30年第46週〕の感染症発生状況

第46週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、6.86人と前週(5.65人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、4.11人と前週(4.38人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は、2.44人と前週(1.56人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

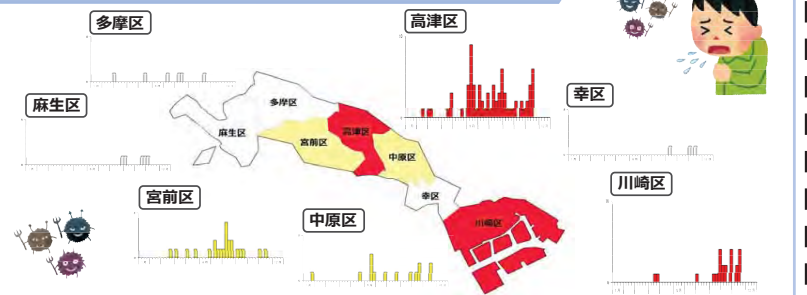


地域的な流行が続いています！～百日咳～

百日咳は百日咳菌を原因とし、特有の発作性の咳を特徴とする急性気道感染症です。川崎市では平成30年6月以降、地域的な流行が続いており、現在は高津区と川崎区において発生が多くみられています。

国立感染症研究所による全国の百日咳報告(平成30年1月1日～9月30日)では、5歳から15歳未満までの小児の報告数が多く、30歳代から50歳代の成人においても患者が散見されています。川崎市においても同様の傾向がみられ、学校等での集団生活における感染や家庭内あるいは会社での感染も報告されています。百日咳の感染が疑われる場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。

川崎市における百日咳区別発生状況～平成30年第1週～第46週～



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年11月19日(月)～平成30年11月25日(日)〔平成30年第47週〕の感染症発生状況

第47週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、7.22人と前週(6.86人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、3.41人と前週(4.11人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は、1.78人と前週(2.44人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

★溶連菌★
ヨーレンくん



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に注意しましょう！

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、主に冬季及び春から初夏にかけて流行がみられ、菌の侵入部位や組織によって多彩な症状を引き起こす細菌感染症です。

川崎市では、平成30年6月以降、過去5年間の平均と比べてやや高いレベルで推移しています。現在、患者報告数はやや減少がみられるものの、今後再び増加する可能性もありますので、引き続き注意が必要です。

就学前後(4歳～7歳)の小児で発熱や咽頭痛などの症状がある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

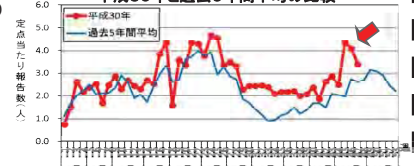
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の症状

- ・突然の発熱(38.5℃以上)
 - ・全身倦怠感
 - ・咽頭痛
 - ・莓舌(イチゴのように赤くボツボツした状態)
 - ・体や手足に小さくて紅い点状発疹
- ※合併症として肺炎、リウマチ熱、急性糸球体腎炎などを起こすことがあります。

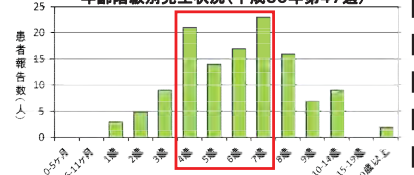
基本的な治療は、抗菌薬の投与です。
処方された薬は、主治医の指示どおり服用し、最後までしっかりと飲みきりましょう。



川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況～平成30年と過去5年間平均の比較～



川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎年齢階級別発生状況(平成30年第47週)



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年11月26日(月)～平成30年12月2日(日)【平成30年第48週】の感染症発生状況

第48週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)伝染性紅斑でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は10.65人と前週(7.22人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.86人と前週(3.41人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は1.78人と前週(1.57人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



川崎市風しん対策事業－30～50歳代の男性も対象に！－

川崎市では、風しん対策事業として、妊娠を希望する女性などを対象に無料の抗体検査を実施してきましたが、平成30年12月3日から対象者を拡大し、30～50歳代の男性を追加しました。妊婦への感染を防ぐため、本事業を利用して抗体検査を受け、抗体価の低い方はワクチン接種を御検討ください。

妊婦と赤ちゃんを風しんから守りましょう！
平成30年度川崎市風しん対策事業について

【実施期間】平成30年12月3日～平成31年3月31日
【実施場所】市内の協力医療機関
※川崎市ホームページにリストを掲載しております。

1)風しん抗体検査

【対象者】

- 本市の事業を利用したことがない川崎市民で、次のいずれかに当てはまる方
- ・妊娠を希望する女性
- ・妊娠を希望する女性のパートナー
- ・妊婦のパートナー
- ・30～50歳代の男性(昭和34年4月2日～平成元年4月1日生の方まで)

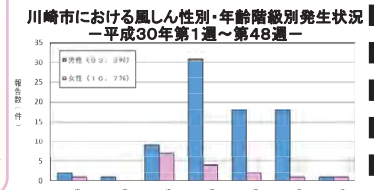
【自己負担額】無料

2)麻しん風しん混合ワクチン接種

【対象者】風しん抗体検査の結果、抗体価が十分でなかった方

【自己負担額】3,200円

妊娠中の女性は予防接種を受けることができません。また、妊娠されていない方でも接種後2か月程度の避妊が必要です。ただし、接種後に妊娠していることがわかった場合でも、胎児に障害が出たという報告はこれまでにありません。万一、ワクチン接種後に妊娠が判明した場合には、産婦人科の先生とよく御相談ください。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年12月3日(月)～平成30年12月9日(日)【平成30年第49週】の感染症発生状況

第49週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は12.41人と前週(10.65人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.68人と前週(3.86人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.67人と前週(1.33人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎～高津区、多摩区を中心に流行がみられています！～

感染性胃腸炎の原因はウイルスや細菌など様々ですが、特に冬季はノロウイルスを原因とする胃腸炎の患者報告数がピークを迎えます。

川崎市においては、第48週(平成30年11月26日～12月2日)以降報告数が増加し、第49週(平成30年12月3日～12月9日)の定点当たり報告数は12.41人となりました。特に、高津区、多摩区からの報告が多くなっています。

ノロウイルス感染者のふん便や吐物には多くのウイルスが含まれ、乾いてほこりとともに舞い上がることもあります。適切に処理し、手洗いを徹底しましょう。

ノロウイルスを原因とする感染性胃腸炎について

【感染経路】

主に経口感染

【潜伏期間】

1～2日間

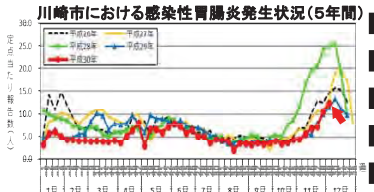
【主な症状】

吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、発熱(軽度)など

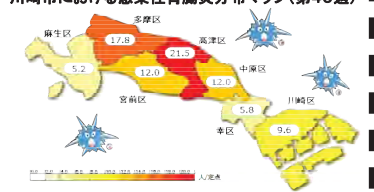
【治療方法】

特異的な治療方法はなく、対症療法が中心

※特に乳幼児や高齢者は、嘔吐や下痢による脱水や体力の消耗を防ぐため、水分と栄養の補給を充分に行いましょう。



川崎市における感染性胃腸炎分布マップ(第49週)



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年12月10日（月）～平成30年12月16日（日）〔平成30年第50週〕の感染症発生状況

第50週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は12.57人と前週（12.41人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.89人と前週（4.68人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は2.16人と前週（0.93人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

★インフルエンザウイルス★
インフルーくん



インフルエンザ～流行シーズン開始！～

今年はインフルエンザの流行の開始時期が遅く、全国では先週から本格的な流行シーズンに入りました。

川崎市でも、平成30年第50週（12月10日～12月16日）の定点当たり報告数が2.16人と流行開始の目安となる定点当たり1.00人を超え、過去5年平均と比べて3週間遅れて流行期に入りました。

インフルエンザは咳やくしゃみなどの飛沫により感染が広がりますので、手洗いやうがいなどの基本的な予防対策に加え、咳エチケットを心がけましょう。

インフルエンザとは？

【感染経路】

飛沫感染、接触感染

【潜伏期間】

概ね1～4日間

【主な症状】

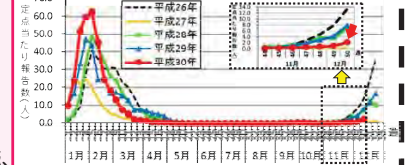
発熱（通常38℃以上の高熱）、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛など

【予防方法】

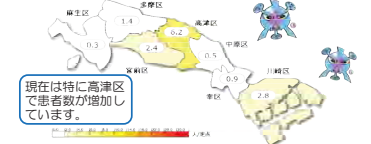
- ・ワクチン接種
- ・手洗いの徹底
- ・適度な湿度の保持
- ・十分な休養とバランスのとれた食事
- ・人混みや繁華街への外出を控える



川崎市におけるインフルエンザ発生状況（5年間）



川崎市におけるインフルエンザ分布マップ（第50週）



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年12月17日（月）～平成30年12月23日（日）〔平成30年第51週〕の感染症発生状況

第51週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は13.95人と前週（12.57人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は6.10人と前週（2.16人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.41人と前週（3.89人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

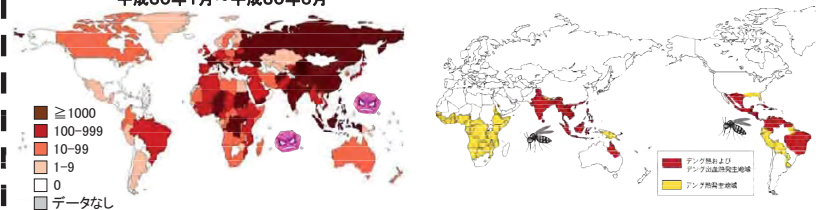


冬休みに海外へ行かれる方へ～渡航先はどちらですか？～

今年は7月下旬以降、全国的に風しんの患者報告数が増加していますが、海外では風しん以外にも、麻しんやデング熱など他の熱性発疹性疾患が流行している地域があります。流行地から帰国後2週間程度は発熱や発疹などの症状に注意し、感染症が疑われる場合は、必ず事前に電話で症状や渡航歴などを伝え、上で、医療機関を受診するようにしましょう。

世界における麻しんの報告数
—平成30年1月～平成30年6月—

世界におけるデング熱及びデング出血熱の発生日域



世界保健機関（WHO）ホームページから引用

国立感染症研究所ホームページから引用

外務省海外旅行登録「たびレジ」をご存知ですか？

「たびレジ」は、外務省からの最新の安全情報を日本語で受信できる海外安全情報配信サービスです。登録することで、出発前から感染症情報を含む旅先の安全情報入手することができます。旅行中も最新情報を受信することができます。海外へ渡航される方は、「たびレジ」に是非登録ください。登録方法は外務省ホームページをご覧ください。 **たびレジ Q で検索！**

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先） 044-276-8250